

地域との交流から 札幌国際センター・帯広国際センター

「新春文化塾」、晴れやかに開催

札幌国際センター恒例の新年の集い、「新春文化塾」が1月27日(土)開催されました。この催しは、国際センターに滞在するJICA研修員などに日本のお正月の雰囲気を味わってもらおうという趣旨で毎年開かれています。

書き初めでは、易しいはずの「ゆき」は曲線が難しく、逆に漢字の「正月」は直線と角で書けるので研修員には易しかったことは、スタッフも意外でした。

昔遊びのコーナーには、福笑い、けん玉、コマ、かるたなどが用意され、参加した研修員たちは珍しそうに遊び方を教えてもらっていました。中には、すみやくに夢中の研修員、羽根突きに強烈ショットを繰り出す研修員なども見られました。また、米山統山さんによる「春の海」など尺八演奏に続いて演奏体験もありましたが、こちらはなかなか音が出ず難しかったようでした。

いつもとは違うお正月の雰囲気に満ちた一日でした。



尺八演奏に挑戦



真剣な表情で「ゆき」の2文字を

クロスカントリースキーを体験

帯広国際センターでは、毎年帯広クロスカントリースキークラブの協力を得て、センターの隣の公園にコースを設営してもらい、講習会を実施しています。

今年は、1月8日(成人の日)に実施しましたが、ほとんどの研修員が初めての体験で、スキーとストックの持ち方から講習が始まりました。

十勝晴れの青空の下、慣れてきた研修員は講習終了後もコースに残り、練習?に励んでいました。例年何名かの研修員は、週末にコースに出て冬の運動不足の解消を図っています。



勢揃い

青空の下、トレイルを行く

地域の活動 中学生の国際理解への挑戦

「国外の方とのコミュニケーション活動」(11/16 2006)

札幌市立向陵中学校1年生

札幌市立向陵中学校(札幌市中央区。佐藤信校長)で、1年生の総合的な学習のひとつとして「国外の方とのコミュニケーション活動」の催しが行われた。様々なコミュニケーション手段を用いて交流し積極的に外国人と関わる態度やマナーを身につけようと初めて実施したもので、北方圏センターが紹介した中国人留学生をはじめ19ヵ国58名の市内近郊在住の外国人を同校に招いた。

世界の国旗で飾られた明るい多目的室で参加外国人各の言葉による「ここにちは」の挨拶での歓迎後、各教室で数人ずつのグループ単位でけん玉、メンコ、折り紙など日本の子どもの遊びや餅つき、盆踊り、武道など文化の紹介を行った。緊張の中にもとにかく外国人とコミュニケーションを図ろうと一生懸命であった。担当の千葉先生は、「生徒にとって、受け身ではない積極的な活動が体験できました」とこの日の成果を話してくれた。当日はPTAはじめ地域のボランティアも各所で協力していた。

同校では、この日、2年生が近くの商店などで仕事体験を、3年生は体育館で幼稚園児を招いた「ちびっこ交流会」を行うなど学校をあげて学校の外の人びととの出会いを体験した。(以下写真は向陵中学校にて)



ご飯、梅干しを用意して日本の食について話す
(左側の男性はオーストラリアの人)



10ヵ国語の挨拶を覚えて歓迎



静かな緊張が漂っていた一角

「国際交流教室」(1/24 2007) 札幌市立月寒中学校2年生

札幌市立月寒中学校(札幌市豊平区。大塚祐子校長)の2年生35名は、去る1月24日北方圏センターを訪れて国際理解教室に参加した。小林先生に引率されて午後2時に北方圏センターに到着した生徒たちはグループに分かれて着席、一人ひとり自己紹介をした後、ロシアのオーリヤさん(北海道日本ロシア協会)、韓国のジョン(鄭)さん、アメリカのクルマイクさん(北海道国際課交流員)ら3名の講師に用意してきた質問などをぶつけて、外国人の人びとの交流を体験した。このグループ交流に先だって、北方圏センター職員が北方圏センターの仕事の内容や何故国際交流が必要なのか等を話した。

後日生徒たちから丁寧な礼状が寄せられた。「外国の学校の規則や休み時間の過ごし方の違いがわかった」、「自分でももっと外国のことを理解したい」など感想が書かれ、この日の国際理解教室は印象に残ったようである。

(交流部)